

忽七版

東京女子高等師範學校  
教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生新著

▲四六版三百餘頁頗る美本  
▲口繪十六枚・挿繪多數入  
▲保育法の實際實景紹介  
▲定價二圓五十錢送十六錢

# 幼稚園 保育法眞諦

## ○倉橋先生保育眞諦

日本のフレーベル倉橋先生の代表的名著茲に出來。發行後僅に數ヶ月にして既に七版を突破し、我が國保育界の明星として一齊に大歡迎を受け愛讀又熱讀さる。東京女高師附屬幼稚園の園児等は先生を「おぢさん」と稱して相敬慕す。此の倉橋先生の保育法の眞諦即コツを悉く本書に披瀝さる。

## ○現代の保育法原論

本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備し且系統も保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者著書少く系統も力作は本書のみ。

## ○保育界耆宿の力作

著者は幼兒教育竝に家庭教育の第一人者として曩に長く、此點に御關心深き 兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢各官家よりの御招聘ある我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事ミ文部省社會教育官とを兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

### 第一篇 幼稚園保育法の眞諦

一 教育に於る目的と對象  
二 幼兒生活と幼稚園生活  
三 幼兒生活への教育を形骸

### 本書の特色に於ては

四 幼兒生活の自己充實  
五 幼兒生活の充實指導  
六 幼兒生活の誘導

七 幼兒生活の教導  
八 幼兒生活の陶冶  
九 幼稚園に於る保姆の位置

二 無案保育  
三 誘導の保育案

四 保育案の採りどころ  
五 保育案と保育項目  
六 保育案立案度及徹底度  
七 保育案と自由遊び  
八 保姆の創造性  
九 保姆の生活性

一 幼稚園の朝  
二 自由遊びから仕事へ  
三 個々分團組  
四 個々の時間割  
五 生活態度による分團組

六 流れのゆく一日  
七 流れの向方  
八 生活の偶發性  
九 日々の實際生活の尊重

十 おかへり  
四 大篇出し  
三 旅へ  
二 人形の家を中心として  
一 旅へ

五 特急列車「うさぎ號」

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區保町一丁目  
東京市神田區保町一丁目  
番七三〇一

〔書良の備必須必〕

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よしこ先生 共著  
附屬幼稚園主事 保母 菊判 洋綴 天金上製  
定價 三圓八十錢

# 本日幼稚園史

特色

一、二十年苦心の結晶漸く完成す  
二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る  
三、日本幼稚園史として比類なし  
大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。  
倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。  
皇代 皇后陛下 行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔。

〔内容目次〕

第一編 沿革及施設史	
第一章 幼稚園開設前略	第一節 明治文化の建設
第二節 幼稚園開設の機運	第三節 幼稚園開設
第二章 幼稚園開設	第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設
第二節 設立後の經過	第三節 開園及開業式—皇
第三節 開園及開業式—皇	
第三章 女子師範學校附屬幼稚園(一)	
第一節 創立當時の規則及學年休業日	第二節 建物庭園及職員
第三節 保育科目及保育用具	第四節 幼稚園參觀記及追憶
第四章 女子師範附屬幼稚園(二)	
第五章 保育養成機關	
第一節 保育見習生	第二節 保姆練習科の設置
第一編 保育の實狀(保育)	
第一章 一日の開講(保育)	第二章 保育科目の改正
第三章 保育科目の改正	第四章 博物理解
第一編 文獻	
第一章 功績者	第二章 中村正直氏
第三章 關信三氏	第四章 豐田美雄女史
第五章 小西信八氏	第六章 保育文獻
第四編 其後の普及發達	

幼稚園の名著

版八	版六十	森川正雄著	森川正雄著	幼稚園の理論及實際	幼稚園の經營	幼稚園の教育	幼稚園の教育法
送價・二・六	送價・二・六	森川正雄著	森川正雄著	幼稚園の理論及實際	幼稚園の經營	幼稚園の教育	幼稚園の教育法
送價・二・六	送價・二・六	森川正雄著	森川正雄著	幼稚園の理論及實際	幼稚園の經營	幼稚園の教育	幼稚園の教育法
送價・二・六	送價・二・六	森川正雄著	森川正雄著	幼稚園の理論及實際	幼稚園の經營	幼稚園の教育	幼稚園の教育法

東大 京阪 社會資合式株書圖洋東 兌發

東京市神田區神保町一丁目 振替東京一〇三番七番  
大阪市南區堂寺町一丁目 振替大阪三九五番六番